



**ASAHI**

**INTECC**

Your dreams. Woven together.

# 2010年6月期 決算説明

---

2010年8月18日

(証券コード:7747 東証二部、名証二部、ジャスダック)



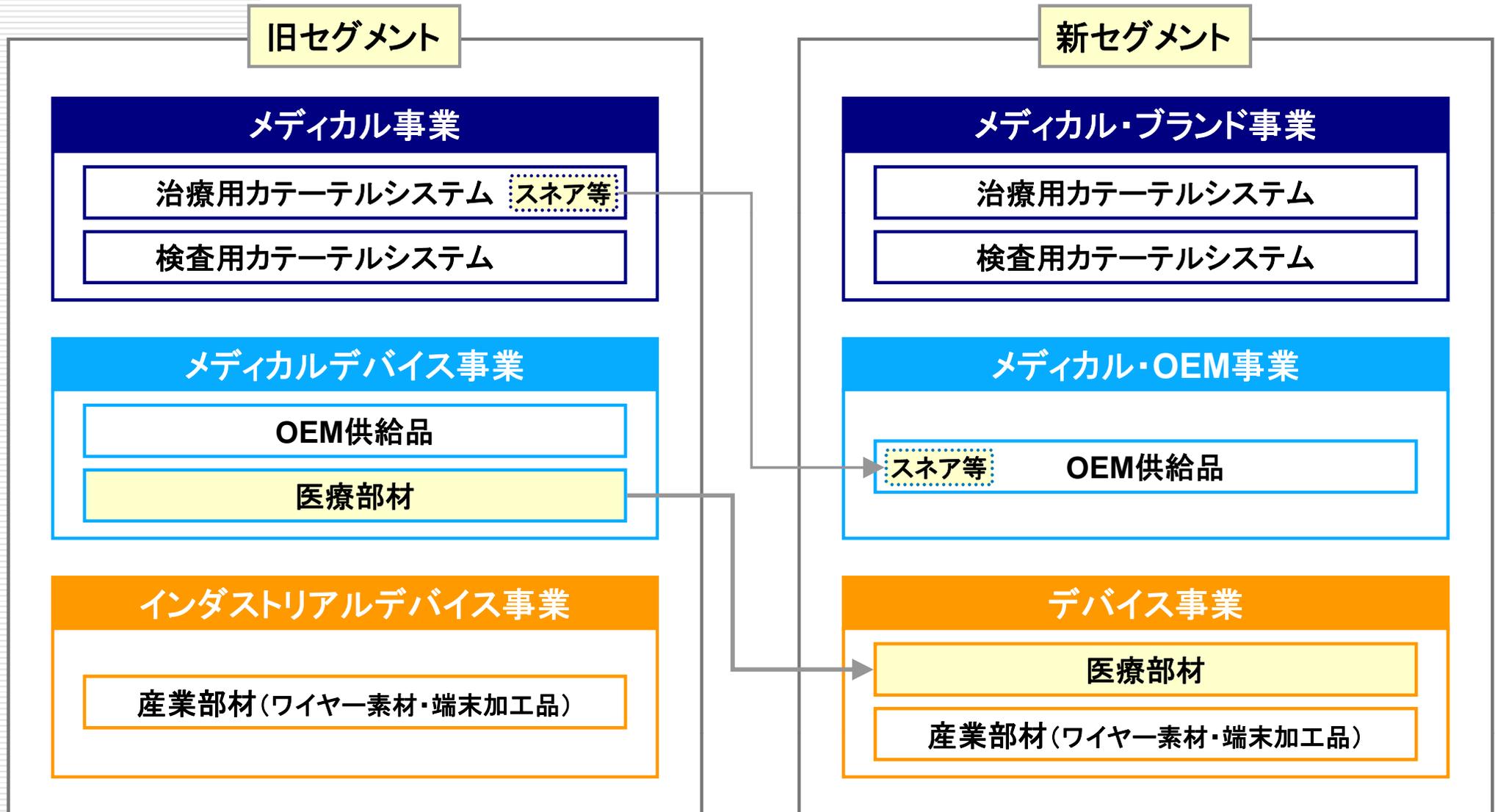
## 1. 2010年6月期決算の概要

## 2. 2011年6月期業績見通し



## 前提：事業セグメントの変更について-1

- 2010年6月期より下記のセグメント区分の変更を行っております。



※スネア：高周波ポリープ切除用内視鏡処置具



## 前提：事業セグメントの変更について-2

### ■変更の理由

- 従来より、インダストリアルデバイス事業は、産業機器分野のみならず医療機器分野に使用される「部材」に関する開発・製造を行っております。
- 現在メディカルデバイス事業に区分計上されている「医療部材」については、このインダストリアルデバイス事業において製造のほぼ全てを行い、それをメディカルデバイス事業に社内売上する方法としておりました。
- 今後も医療部材においては、売上増加する傾向にあり、よってインダストリアルデバイス事業においては、産業機器分野の部材に比べ、医療機器分野の部材を開発・製造する割合が更に大きくなることが予測されます。
- これら実態を考慮し、また部材に対する収益を明確に区分把握する観点から、セグメント区分の変更を行ったものであります。

### ■以下の資料上における留意事項

- 以下資料でのセグメント別の前年同期比較にあたっては、前期連結会計期間分を変更後の区分に組み替えて行っております。



## 2010年6月期決算のポイント(連結)

～過去最高の売上高及び利益を更新～

### ■ 売上高は15,339百万円(前期比20.6%増)と堅調に推移

#### □ 増収分野: 医療機器分野 減収分野: 産業機器分野

- ▶ 医療機器分野は、主に自社ブランド製品が新製品効果などにより、国内・海外共に大幅増収となるなど好調に推移
- ▶ 産業機器分野は、景気悪化の影響や収益構造の転換などにより減収

### ■ 医療機器分野の原価低減・生産性向上により、営業利益は大幅に増加

#### □ 営業利益は2,929百万円(前期比64.4%増)

(営業利益率は前期比5.1ポイント上昇)

- プラス要因
- ▶ タイバーツ安など為替動向の変化に伴う製造経費の減少
  - ▶ アボット社からの協議合意後のPTCA-GWの大量受注に対して主力生産拠点を中心に順調な生産稼働
  - ▶ 固定費及び販管費のコストダウン努力

- マイナス要因
- ▶ 研究開発費用、海外を中心とする営業・マーケティング要員の増加に伴う人件費など、先行投資的な費用の増加
  - ▶ ASAHI INTECC HANOI CO., LTDの立上げに伴う諸経費の増加
  - ▶ たな卸資産の再評価による在庫圧縮

#### □ 経常利益は2,785百万円(前期比93.7%増)

- ▶ 営業外費用に円高の影響による為替差損147百万円を計上(前期は同357百万円計上)

#### □ 当期純利益は1,497百万円(前期比235.9%増)

- ▶ 特別損失に大阪物流センターの遊休化に伴う減損損失284百万円を計上
- ▶ 特別損失に前期損益修正損76百万円、投資有価証券評価損72百万円(前期は同460百万円計上)を計上



## 決算ハイライト(連結)

	2009年6月期(実績)		2010年6月期(実績)					
	金額 (百万円)	構成比 (%)	修正計画 2010/2/3	金額 (百万円)	構成比 (%)	前期比		修正計画比
						増減額 (百万円)	増減率 (%)	増減率 (%)
売上高	12,718	100.0	14,981	15,339	100.0	+2,621	+20.6	+2.4
売上総利益	6,888	54.2	8,289	8,676	56.6	+1,788	+26.0	+4.7
営業利益	1,782	14.0	2,821	2,929	19.1	+1,147	+64.4	+3.8
経常利益	1,438	11.3	2,709	2,785	18.2	+1,347	+93.7	+2.8
当期純利益	445	3.5	1,804	1,497	9.8	+1,051	+235.9	△17.0
EPS	28.13円	-	113.80円	94.48円	-	-	-	-



## セグメント別売上高

	2009年6月期 実績		2010年6月期 実績			
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
メディカル・ブランド事業	8,079	63.5	10,581	69.0	+2,501	+31.0
メディカル・OEM事業	1,752	13.8	1,721	11.2	△30	△1.7
デバイス事業	2,886	22.7	3,035	19.8	+149	+5.2
合計	12,718	100.0	15,339	100.0	+2,621	+20.6

(参考)

医療機器分野	10,736	84.4	13,442	87.6	+2,706	+25.2
産業機器分野	1,981	15.6	1,896	12.4	△84	△4.3

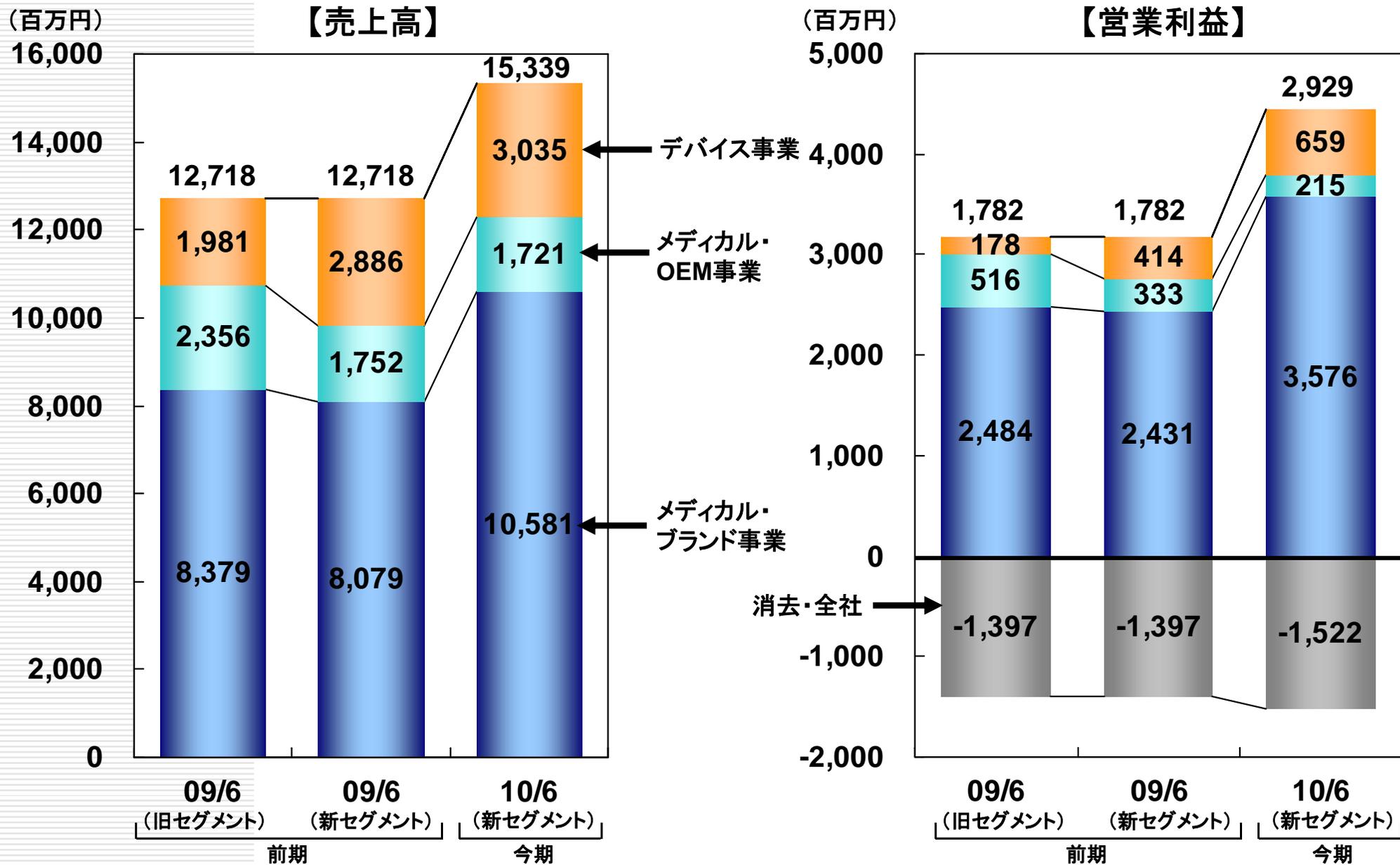


## セグメント別営業利益

	2009年6月期 実績		2010年6月期 実績			
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
メディカル・ブランド事業	2,431	76.5	3,576	80.3	+1,145	+47.1
メディカル・OEM事業	333	10.5	215	4.9	△117	△35.3
デバイス事業	414	13.0	659	14.8	+244	+59.0
計	3,179	100.0	4,451	100.0	+1,272	+40.0
消去・全社	△1,397	-	△1,522	-	△125	-
合計	1,782	-	2,929	-	+1,147	+64.4



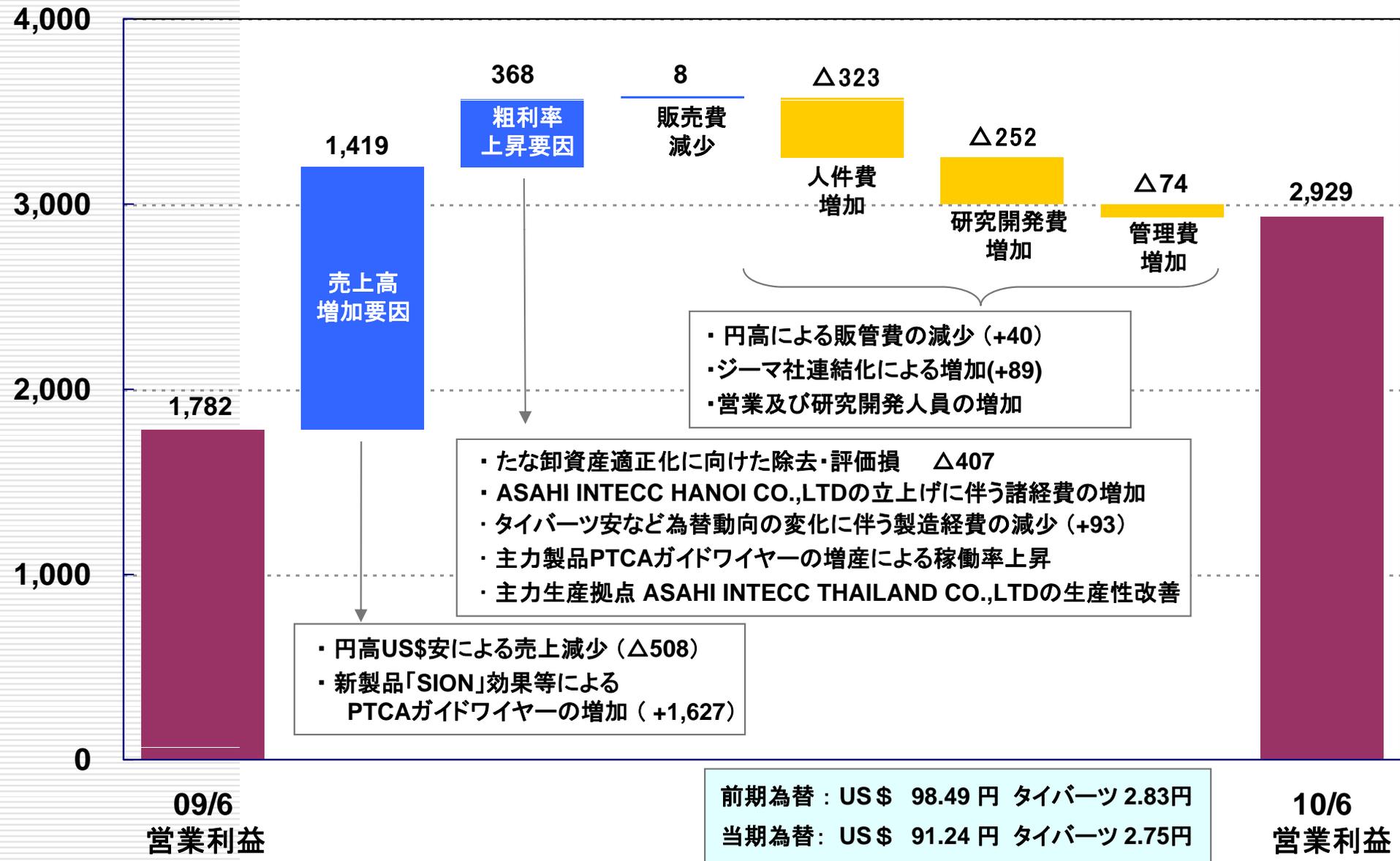
# セグメント別の収益状況





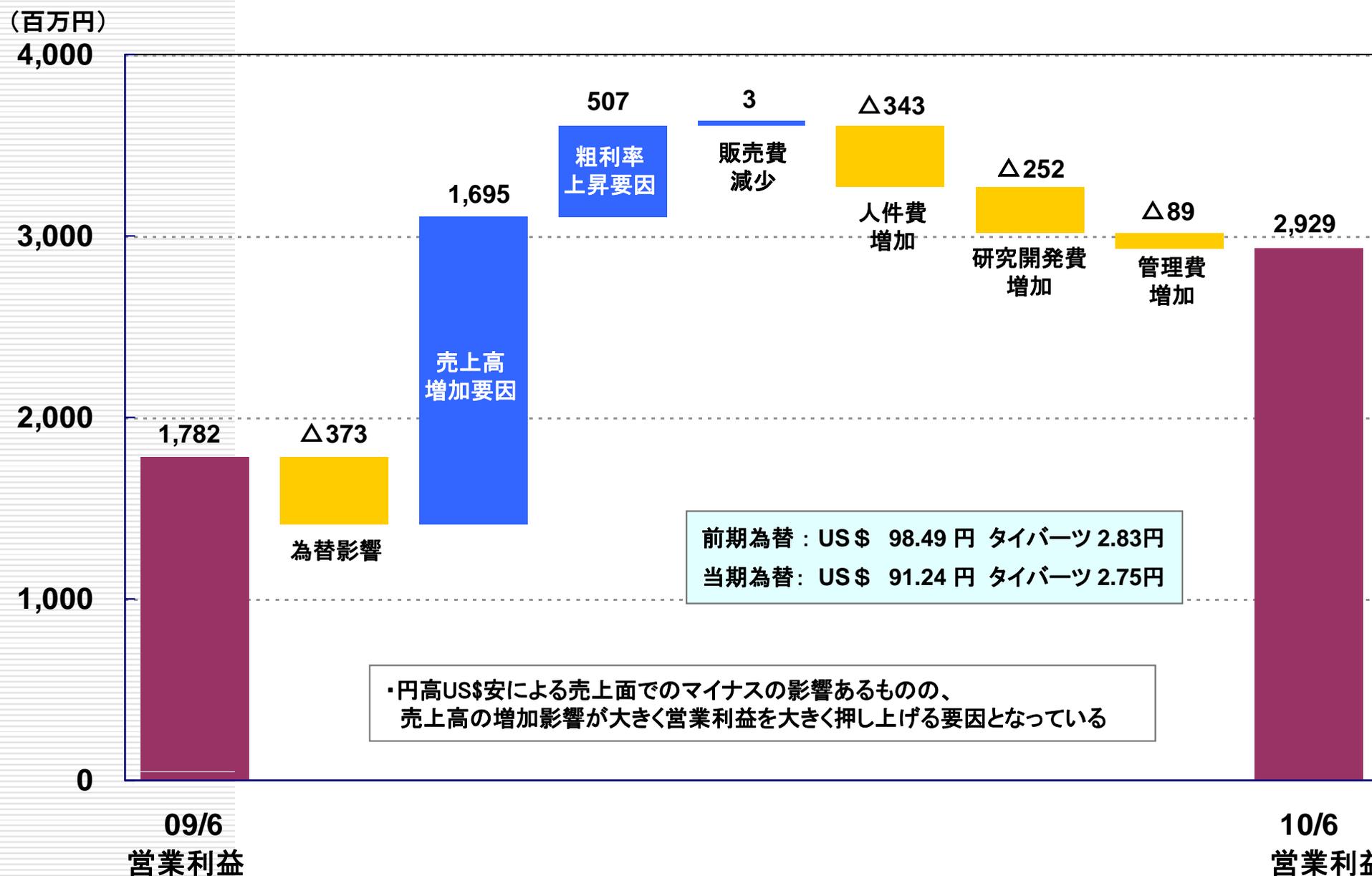
# 営業利益増減要因分析-1 (為替の影響を含む)

(百万円)



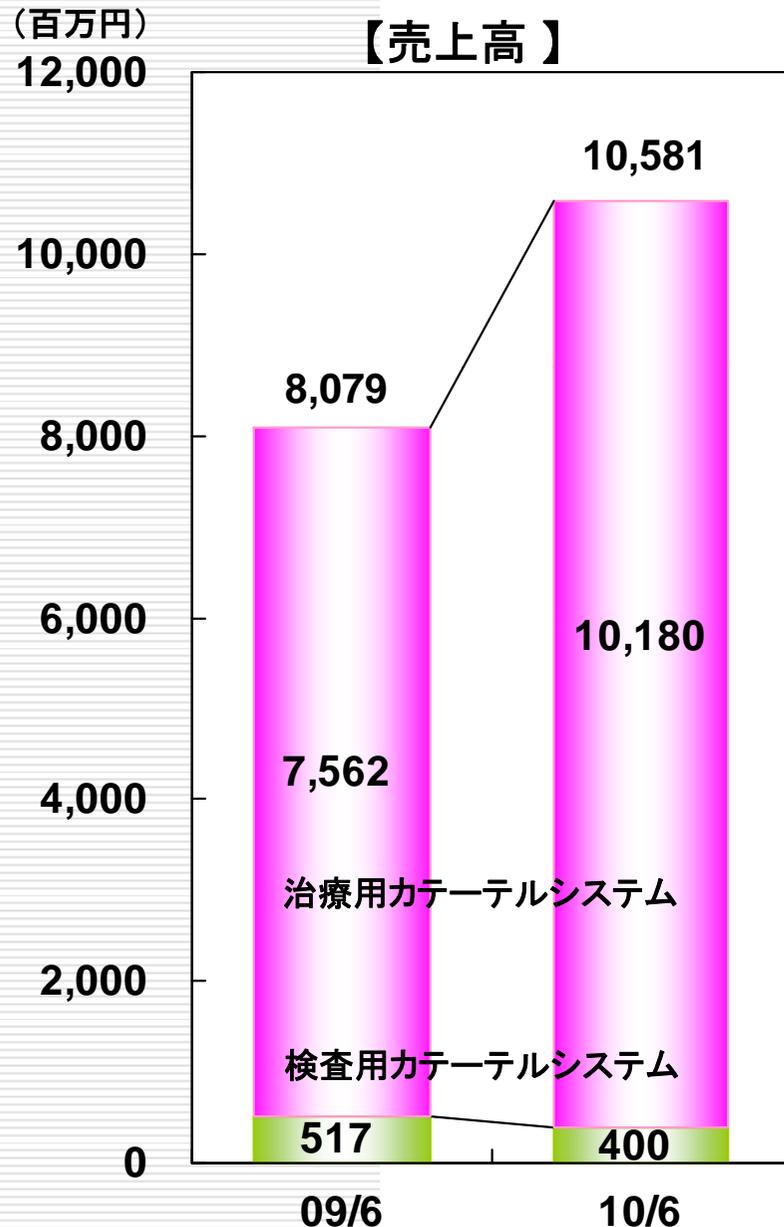


## 営業利益増減要因分析-2(為替の影響を除く)





## メディカル・ブランド事業の状況



### ■ 国内・海外共に順調に推移

- 売上高10,581百万円(前期比31.0%増)
- 営業利益3,576百万円(同47.1%増)

### ■ 治療用カテーテルシステム

- 10,180百万円(前期比2,618百万円増、同34.6%増)
- 国内:循環器系を中心に幅広い患部領域の製品が好調
  - ▶ 新製品「SION」効果によりPTCAガイドワイヤーの売上高が大幅増加
  - ▶ ガイディングカテーテル、バルーンカテーテル、マイクロカテーテルなど増加
  - ▶ CTO用貫通カテーテル「Corsair」販売開始により大きく増加
  - ▶ 末梢血管系のPTAバルーンカテーテル、ペリフェラルガイドワイヤーの売上増加
  - ▶ 新分野として参入した脳血管系製品も好調に推移
- 海外:アボット社及びアボット社以外の売上が順調に拡大
  - ▶ 米国・欧州・アジア・中近東など全世界的にPTCAガイドワイヤーの売上が大きく増加、特に中国向けが予想以上に好調に推移
  - ▶ CTO用貫通カテーテル「Corsair」の米国・欧州地域等への販売開始による売上増加
  - ▶ 末梢血管系のペリフェラルガイドワイヤーの売上が米国企業との契約締結により新規に増加

### ■ 検査用カテーテルシステム

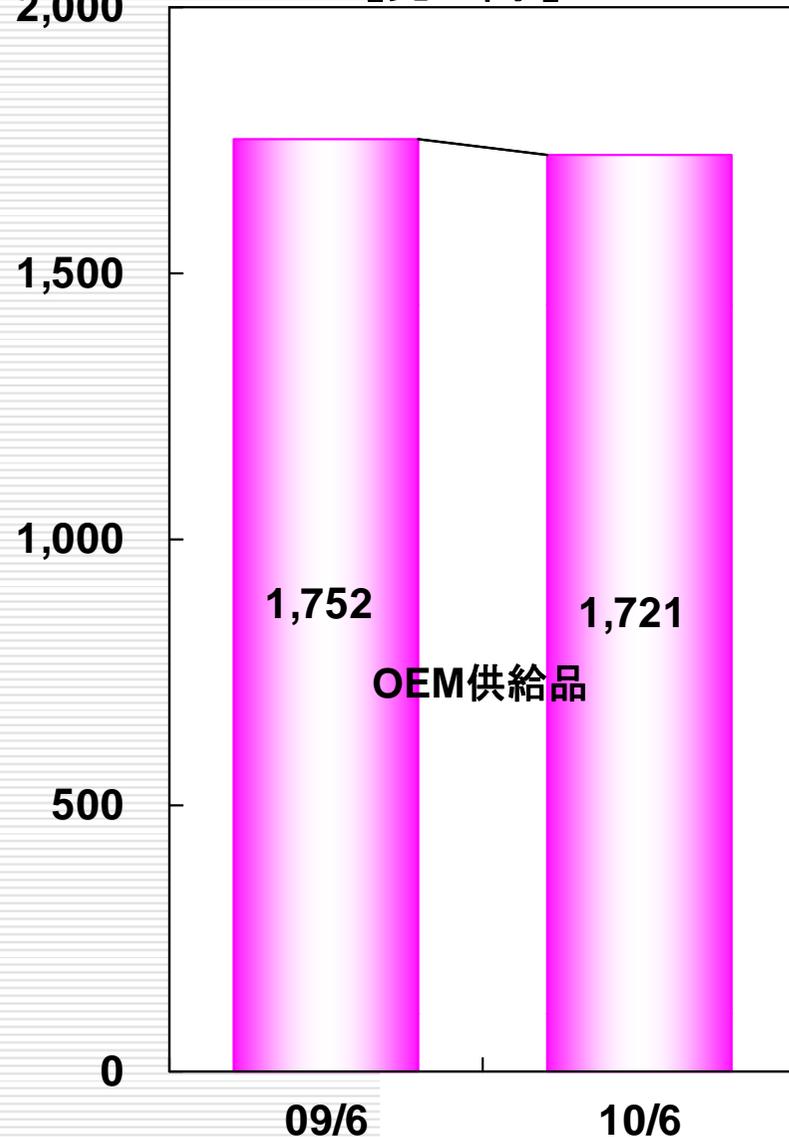
- 400百万円(前期比116百万円減、同22.6%減)
  - ▶ 海外向け検査用カテーテルは方針により縮小傾向



## メディカル・OEM事業の状況

(百万円)  
2,000

【売上高】



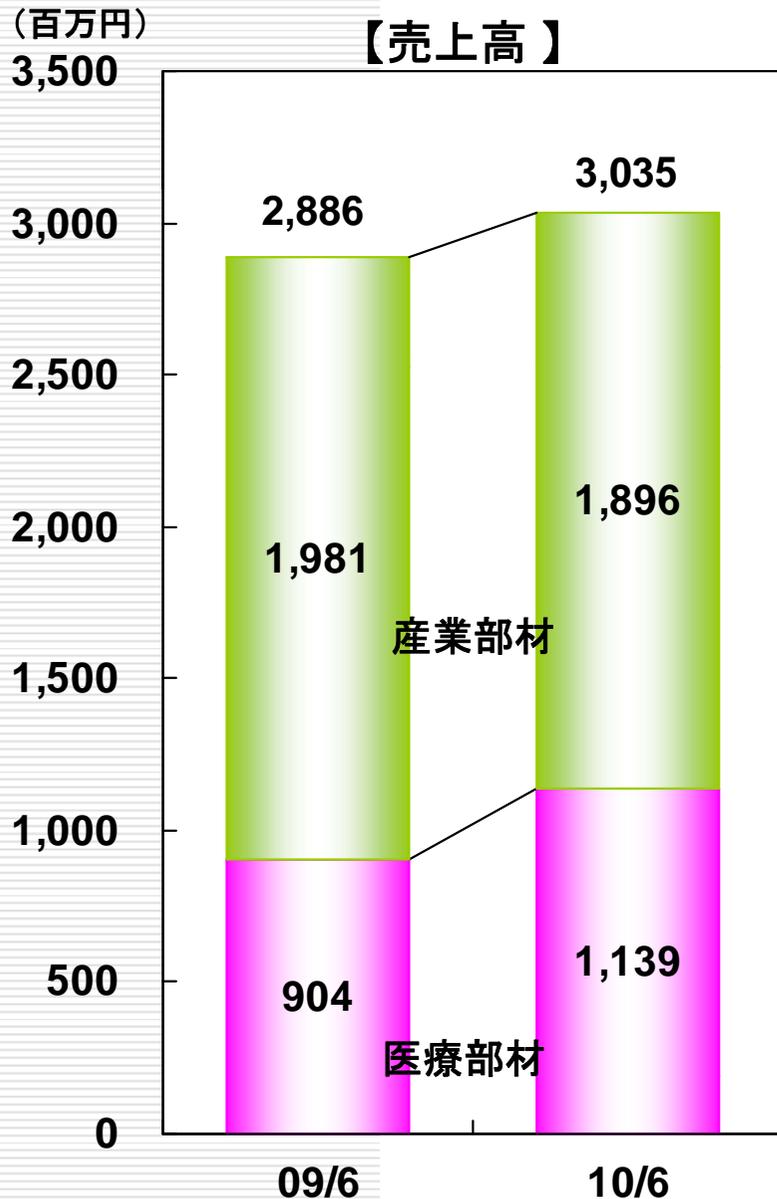
- 循環器以外の新領域分野への進出を積極的に展開
  - 売上高1,721百万円(前期比1.7%減)
  - 営業利益215百万円(同35.3%減)

### ■ OEM供給品

- 国内医療機器メーカー向けOEM供給品は減少
  - ▶ 末梢血管系製品が増加
  - ▶ 一方、内視鏡関連製品や腹部系製品は取引先の在庫調整や販売不振などに伴い減少
- 海外向けは脳血管系が増加、末梢血管系は減少
  - ▶ 米国向け脳血管系製品が増加
  - ▶ 一方、米国向け末梢血管系製品は取引先の販売開始が遅延したことなどから在庫調整が発生し減少



## デバイス事業の状況



- 医療部材はジーマ株式会社との協調によって増収  
産業部材は景気悪化により減収となるも下期は回復傾向
- 売上高3,035百万円(前期比5.2%増)
- 営業利益659百万円(同59.0%増)

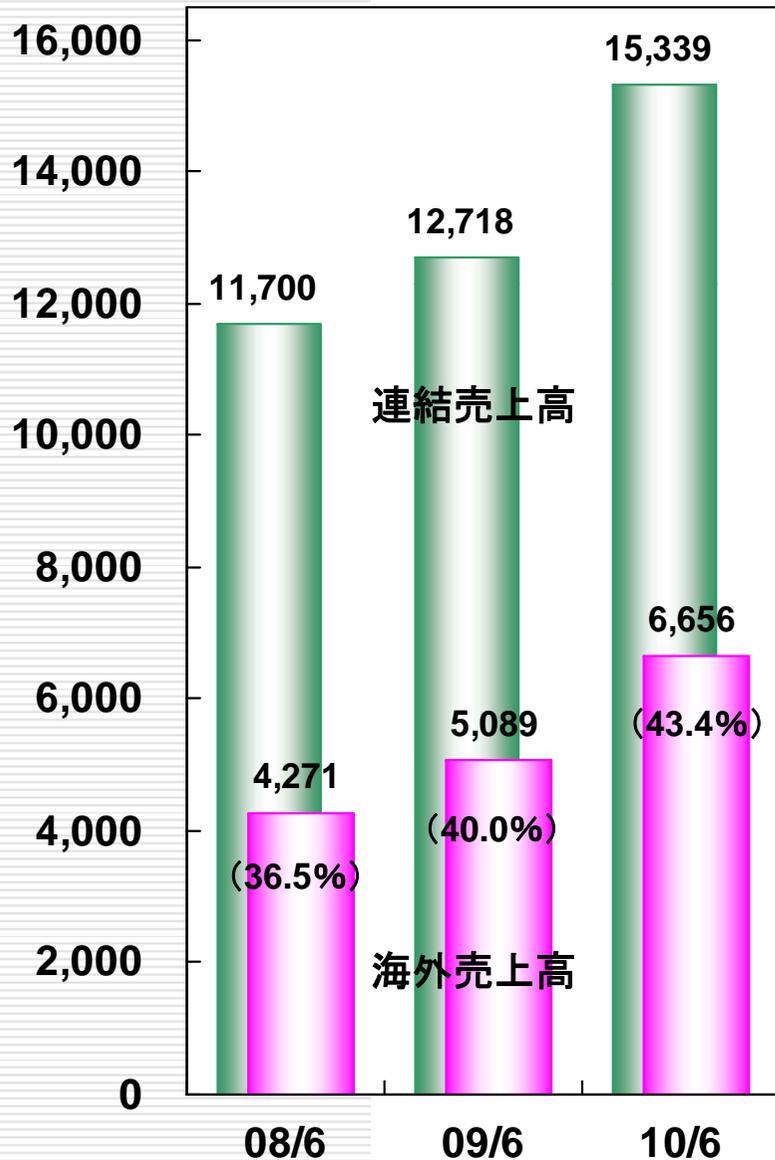
- 産業部材
  - 1,896百万円(前期比84百万円減、同4.3%減)
  - 高付加価値製品へのシフト、販売価格見直しに注力
    - ▶ レジャー関係、建築関係、OA機器関係の一部を集約
  - 景気回復の兆しにより足元は回復基調にあるものの、  
上期の減収幅が大きく、通期では微減
    - ▶ 自動車業界は国内海外共に増加傾向
    - ▶ 上期中心にOA機器、レジャー、機械、建築関係など減少
  - 収益構造強化に向けた施策の推進により、営業利益額・率増加

- 医療部材
  - 1,139百万円(前期比234百万円増、同25.9%増)
  - 海外向け医療部材が好調
    - ▶ 米国向けの耳鼻咽喉科関係、血管造影機器関係
  - 国内向けも増加
    - ▶ 内視鏡関連部品の売上高は減少
    - ▶ 新規連結子会社ジーマ株式会社の売上高が増加



# 海外売上高の状況

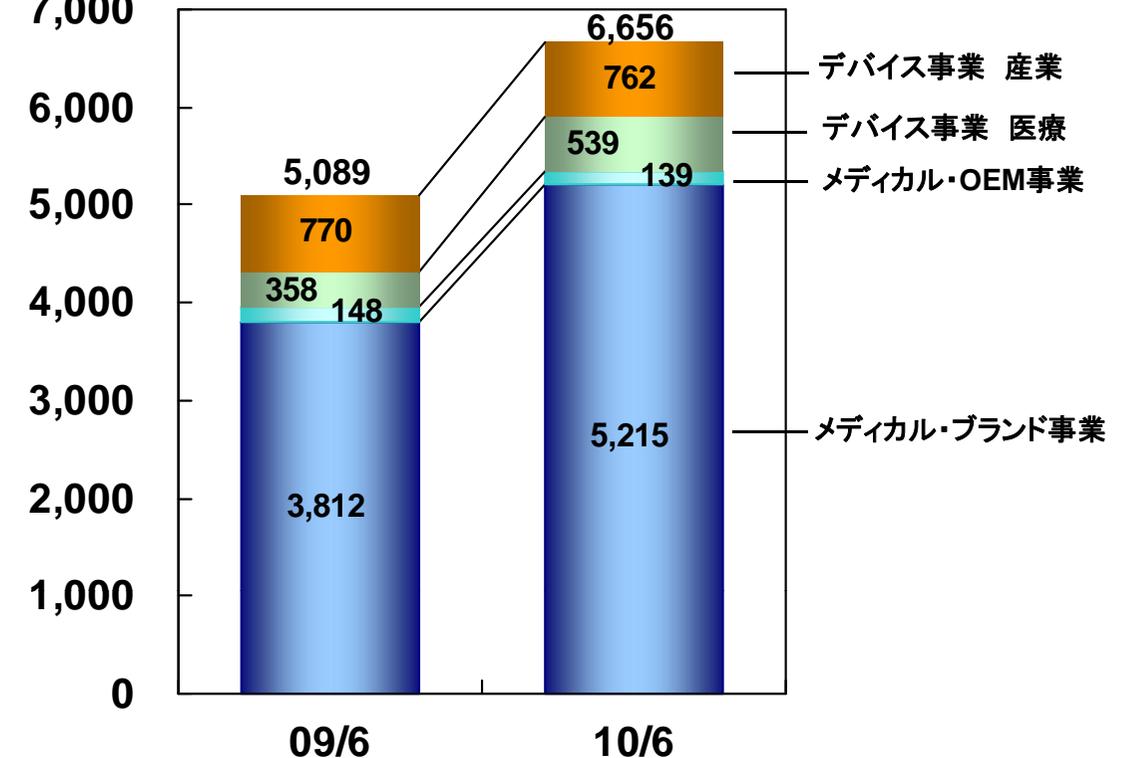
【海外売上高の推移】



□ 海外売上高は1,567百万円増加(前期比30.8%増加)

- ▶ ドル安による売上高減少や産業機器減少の影響を受けたものの、医療機器分野のメディカル・ブランド製品が好調
- ▶ メディカル・ブランド事業では全世界的に増加傾向 特に中国向けが好調に推移

【セグメント別海外売上高】





## 損益の状況(連結)

	2009年6月期 実績		2010年6月期 実績			
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	主な増減要因
売上高	12,718	100.0	15,339	100.0	+2,621	医療機器分野の増収
売上原価	5,829	45.8	6,662	43.4	+833	
売上総利益	6,888	54.2	8,676	56.6	+1,788	稼働率上昇に伴う生産性向上
販管費	5,106	40.1	5,747	37.5	+641	人件費及び研究開発費の増加
営業利益	1,782	14.0	2,929	19.1	+1,147	
営業外収益	112	0.9	98	0.6	△13	保険返戻金の減少 △43
営業外費用	456	3.6	243	1.6	△212	為替差損 △210
経常利益	1,438	11.3	2,785	18.2	+1,347	
特別利益	2	0.0	31	0.2	+29	貸倒引当金戻入金 +26
特別損失	542	4.3	571	3.7	+29	減損損失 +284 前期損益修正損失 +76 固定資産除却損 +67 投資有価証券評価損 △388
当期純利益	445	3.5	1,497	9.8	+1,051	



## ご参考：第4四半期の状況

(百万円)

	2010年6月期 1Q~3Q 実績			2010年6月期 4Q 実績		
	1Q	2Q	3Q	4Q	3Q比 増減額	主な増減要因
売上高	3,822	3,586	4,064	3,866	△197	償還価格引下げの影響
売上原価	1,628	1,601	1,708	1,724	+16	在庫廃棄評価減 +87
売上総利益	2,194	1,984	2,355	2,141	△213	
販管費	1,243	1,287	1,395	1,820	+424	賞与の増加 +184 その他一時的な経費の増加
営業利益	950	697	960	321	△638	
営業外収支	△82	△3	14	△72	△86	為替差損 △77
経常利益	868	693	974	249	△725	
特別損益	△61	△51	△40	△387	△346	減損損失 △284
当期純利益	540	465	674	△183	△857	



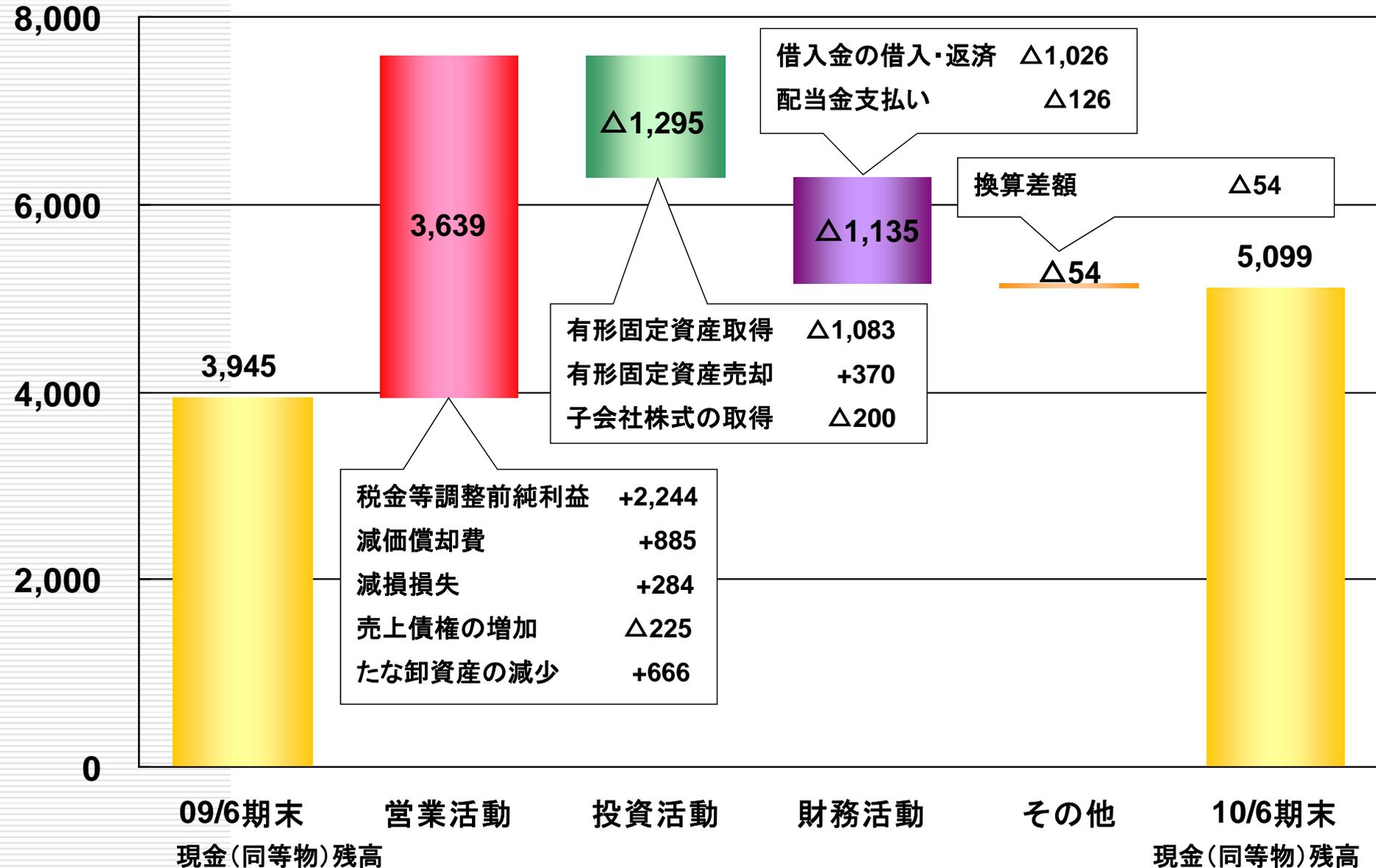
## 財務の状況(連結)

	2009年6月期 実績		2010年6月期 実績			
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	主な増減要因
流動資産	11,117	53.8	12,253	55.7	+1,136	現預金の増加 +1,473 売上債権の増加 +232 たな卸資産の減少 △608
固定資産	9,537	46.2	9,757	44.3	+219	有形固定資産の増加 +124 のれんの増加 +226
資産合計	20,655	100.0	22,011	100.0	+1,355	
流動負債	4,624	22.4	5,425	23.8	+621	短期借入金の増加 +254 未払金の増加 +222
固定負債	3,872	18.7	3,511	16.0	△360	長期借入金の減少 △434
負債合計	8,497	41.1	8,757	39.8	+260	
純資産合計	12,158	58.9	13,253	60.2	+1,095	利益剰余金の増加 +1,370 為替換算調整勘定 △245
負債・純資産合計	20,655	100.0	22,011	100.0	+1,355	



# 連結キャッシュ・フローの状況

(百万円)





## 1. 2010年6月期決算の概要

## 2. 2011年6月期業績見通し



## 2011年6月期決算の見通し(連結)

### ■ 売上高は15,743百万円(前期比2.6%増)を見込む

#### □ 増収分野: 医療機器 減収分野: 産業機器

- ▶ 医療機器分野の国内市場は、償還価格下落の影響があるものの、貫通カテーテル「Corsair」の売上増加などに伴う数量増加により増収を確保
- ▶ 医療機器分野の海外市場は、EU及びアジア(中国)を中心とする販売増加により増加の見込み
- ▶ 産業機器分野は経営資源の効率的な配分について再検討、高付加価値製品へのシフト、不採算製品の取引中止など段階的に構造転換を図っており、売上は一時的に減少見込み

### ■ 先行的な費用発生などにより、営業利益はほぼ横ばいに推移

#### □ 営業利益は3,001百万円(前期比2.5%増)

- ▶ 将来の成長性を持続し、さらに加速化させるための先行的な費用を複合的に投下  
(研究開発費、営業力やマーケティング機能強化のための人員及び諸経費の増加)

#### □ 経常利益は2,964百万円(前期比6.4%増)

#### □ 当期純利益は2,052百万円(前期比37.0%増)

#### 為替の前提

10/06(実績) : US\$ 91.24 円 タイバーツ 2.75円

11/06(計画) : US\$ 90.00 円 タイバーツ 2.80円

#### 為替変動による営業利益の影響(試算)

US\$ (+1円の影響) : 約59百万円増加

タイバーツ(+0.1円の影響) : 約60百万円減少



## 2011年6月期業績見通し(連結)

	2010年6月期(実績)		2011年6月期(計画)			
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	前期比	
					増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	15,339	100.0	15,743	100.0	+403	+2.6
売上総利益	8,676	56.6	10,198	64.8	+1,522*	+17.5
営業利益	2,929	19.1	3,001	19.1	+72	+2.5
経常利益	2,785	18.2	2,964	18.8	+179	+6.4
当期純利益	1,497	9.8	2,052	13.0	+554	+37.0
EPS	94.48円	-	129.47円	-	-	-

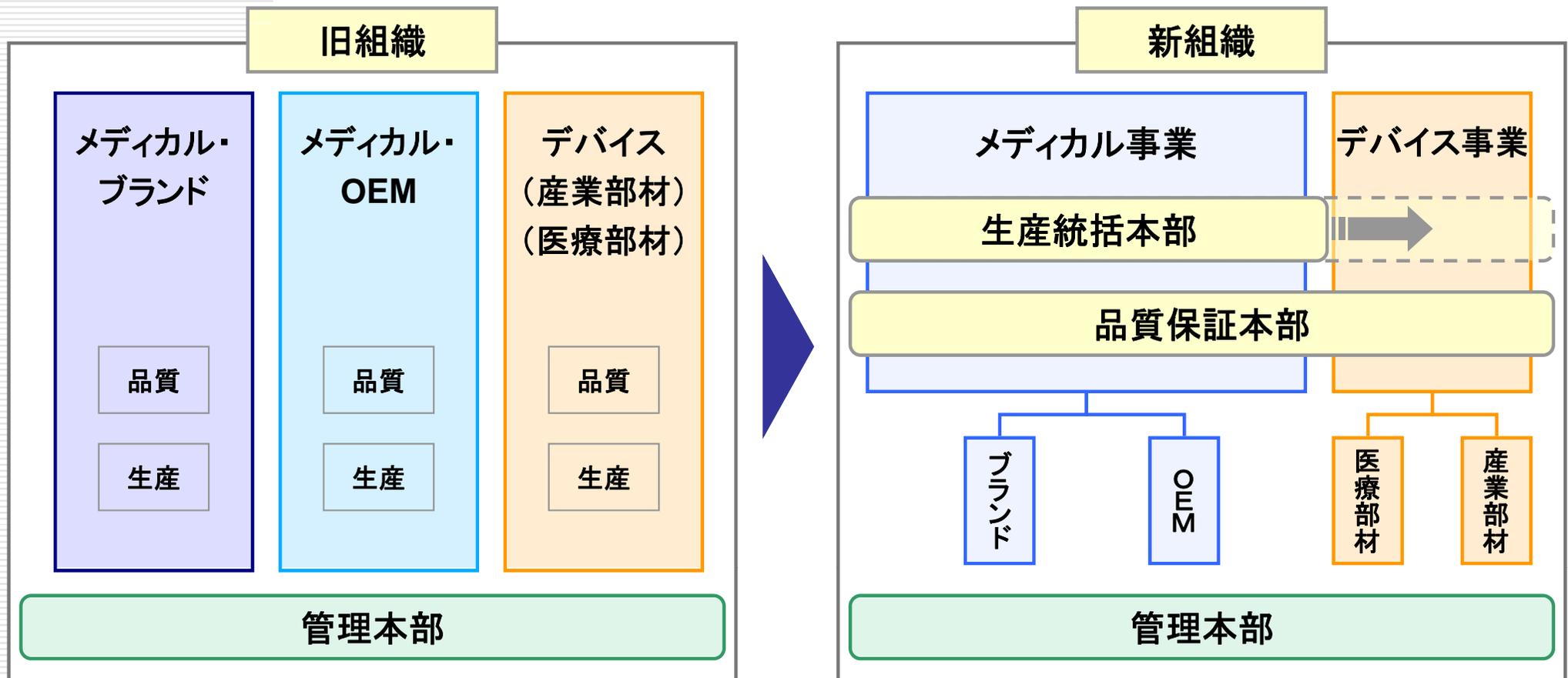
\* 2011年6月期(計画)の売上総利益は、組織変更に伴う売上原価から販管費への費用区分変更の影響として約800百万円の増加を見込んでおります。



## マトリックス組織形態への移行について

### ■ 組織変更の内容と目的

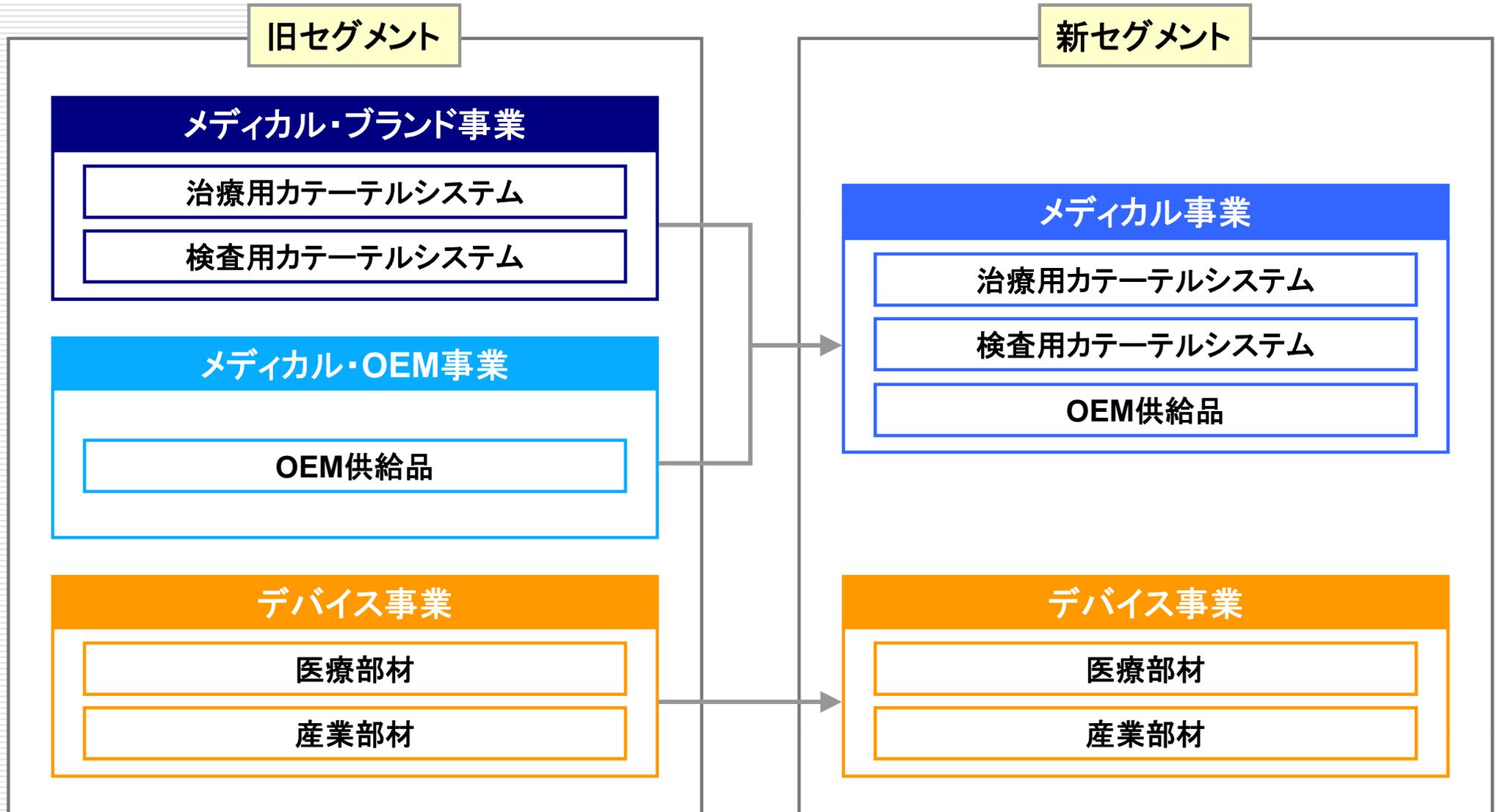
- 横断的組織として、「生産統括本部」及び「品質保証本部」を設立
- マトリックス組織への移行をはかることにより、開発・生産・品質・販売の役割を明確化し、製品開発のスピードの向上、生産性の向上を目指す





## 事業セグメントの変更について

- 組織形態の変更に伴い、2011年6月期より下記のセグメント区分に変更致します。

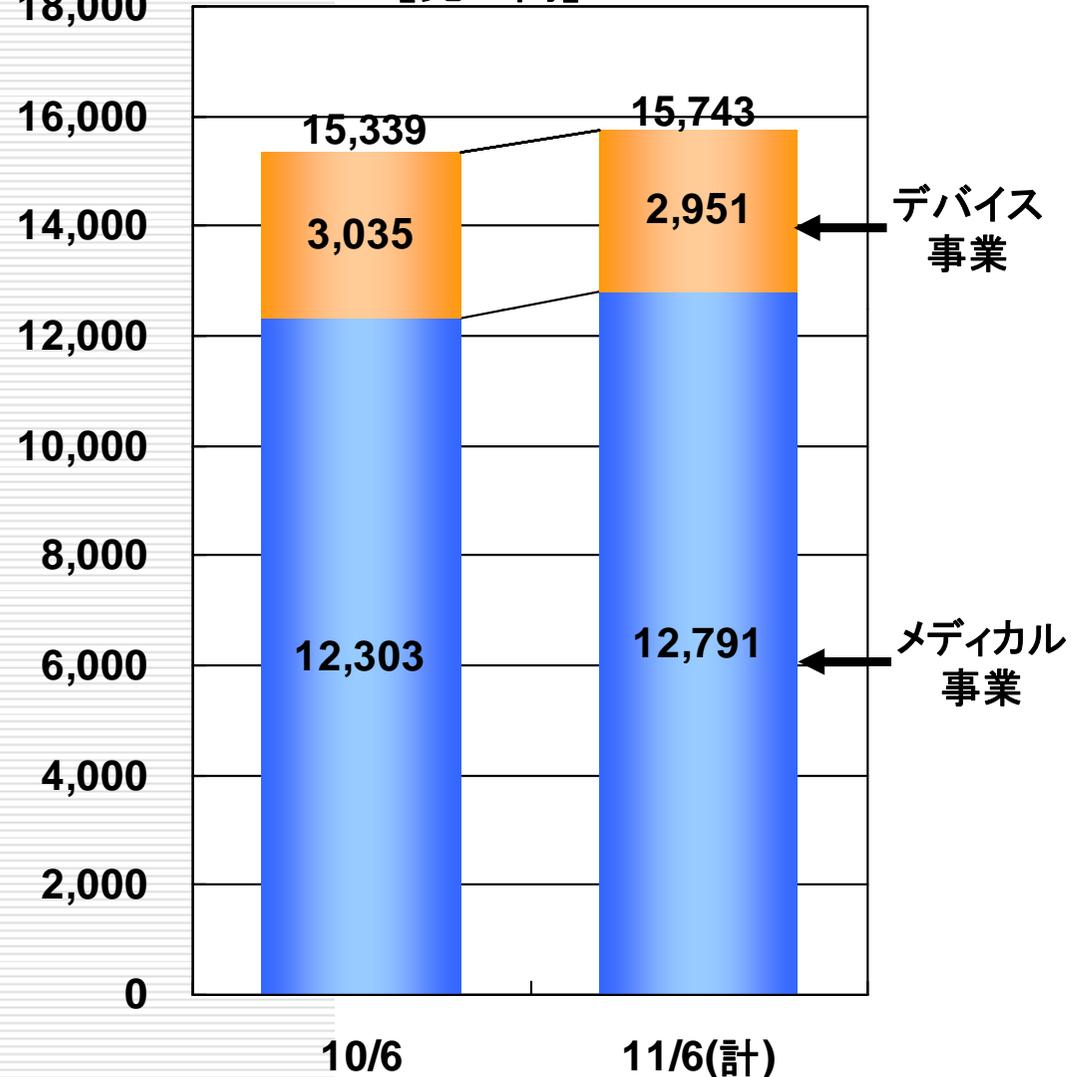




## セグメント別の収益見通し

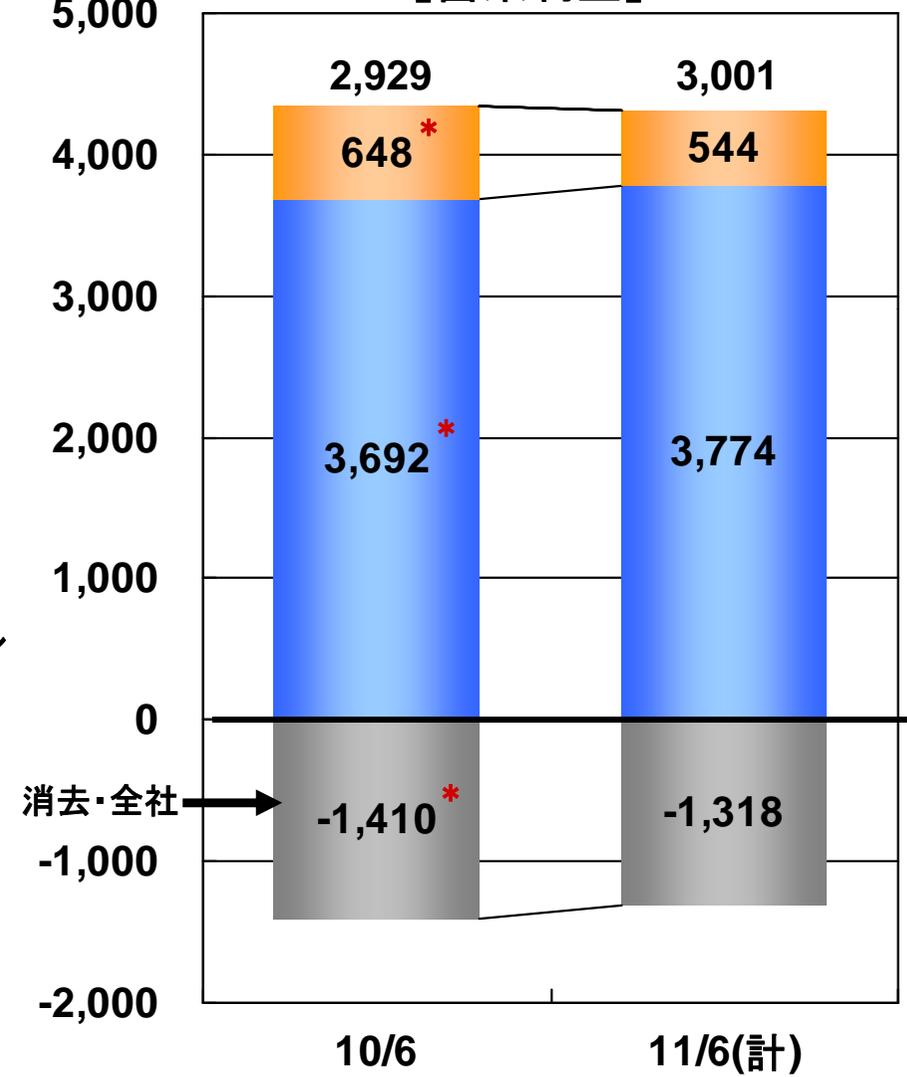
(百万円)  
18,000

【売上高】



(百万円)  
5,000

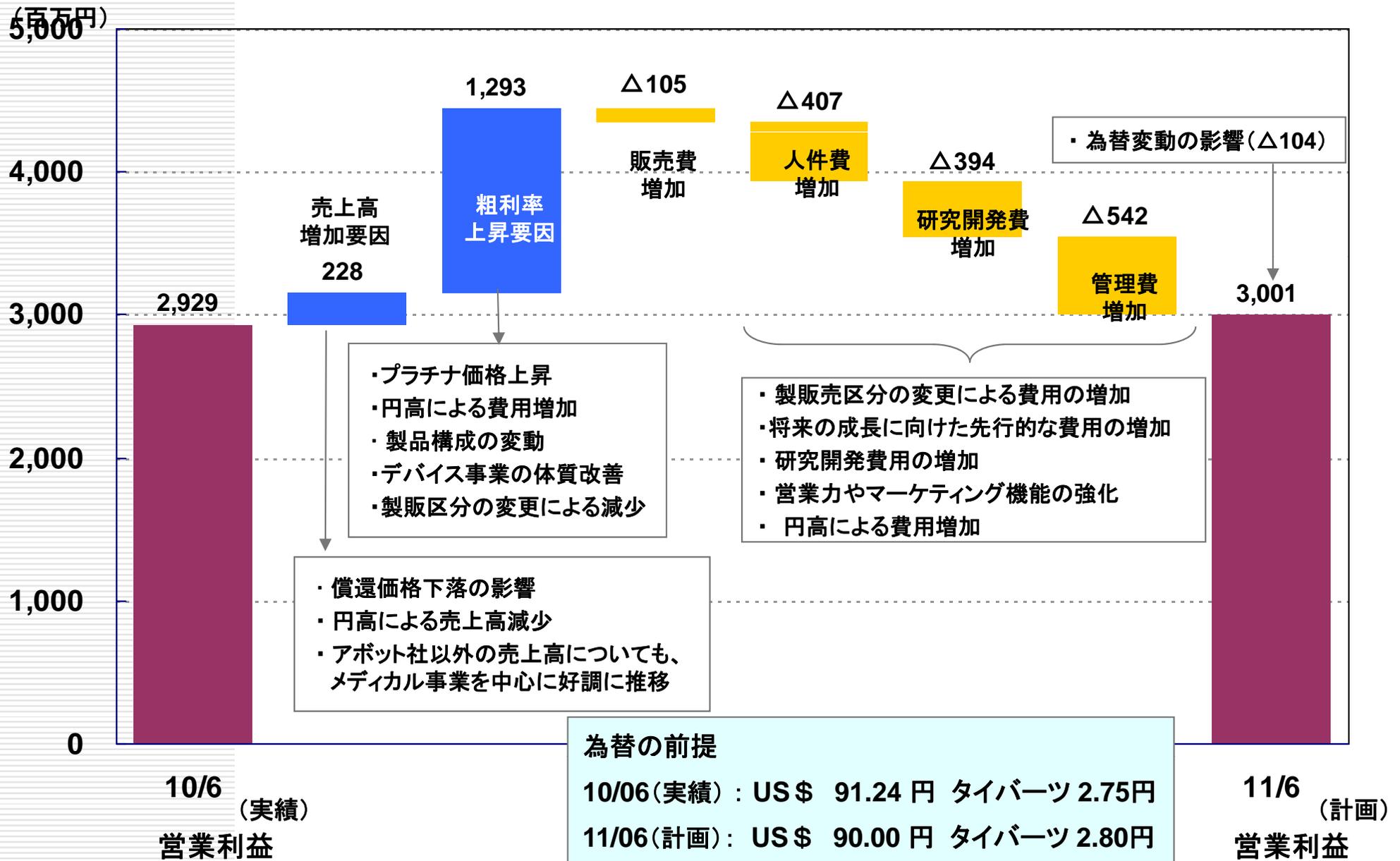
【営業利益】



\* 全社的な研究開発を担う基盤技術グループの費用について、10/6期までは全社勘定に計上されておりましたが、11/6期から各セグメント区分に変更しており、よって10/6期実績について11/6期基準に調整変更を行っております。



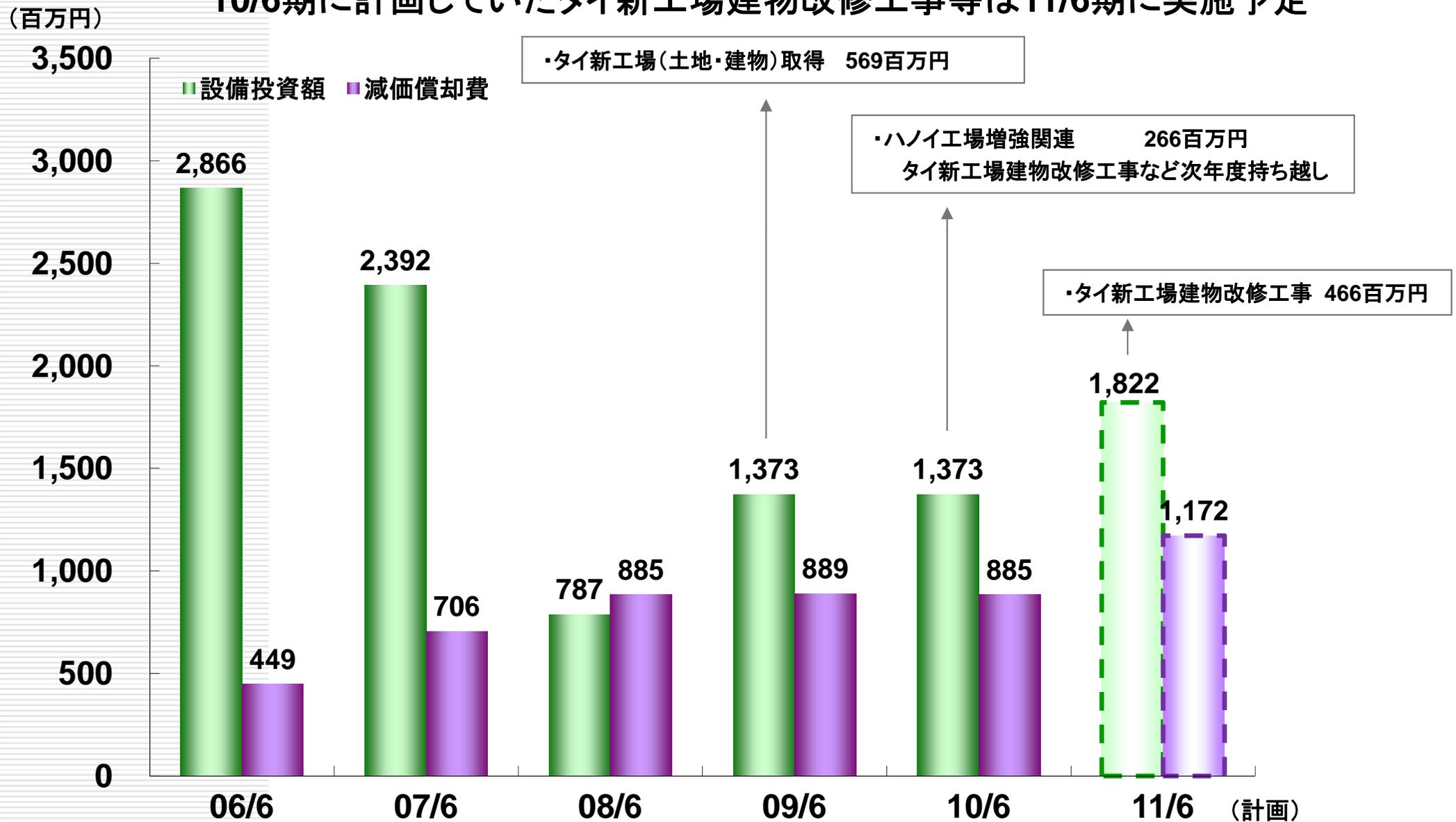
# 11/6期計画の営業利益増減要因分析





## 設備投資の実績及び計画

10/6期に計画していたタイ新工場建物改修工事等は11/6期に実施予定





## 本資料における注記事項

本資料に記載されている、将来の業績に関する計画、見通し、戦略などは現在入手可能な情報に基づき判断したものであり、リスクや不確実性を含んでおります。

実際の業績は、様々な重要な要素により、大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。

### 【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

朝日インテック株式会社 経営戦略室

TEL 052-768-1218 (Direct)

URL <http://www.asahi-intecc.co.jp/>